

## 第7回フィールドワーク 神社の原点を対馬に探る

令和元年11月21・22両日、神社の原点を尋ねて長崎県の対馬を訪れた。長崎県といっても、対馬の北端から朝鮮半島の南端まで直線距離で約50kmしかなく、釜山市の高層ビル群までよく見える。一方、玄界灘を隔てた博多(福岡市)までは150kmもあり、常に「夷狄の襲来を意識してきた島である。

対馬に到着早々、韓国・文在寅政権による一方的な破棄通告による日韓間のGSOMIA失効まで「あと36時間」と迫り、不測の事態に備えて自衛隊の軍用車両が次々と行き交う現場を目撃し、対馬の置かれた歴史と現状を否応なく実感させられた。

最初に、今回の対馬訪問の最大の目的地である和多都美神社を訪れた。「ワタツミ」とは、文字通り「海神」の意であり、別名を「豊玉彦」といい、島国である日本の建国神話そのものと直結している。住吉三男神、宗像三女神と共に、海洋民族であった



干潮時の和多都美神社の境内と磯良恵比須

この国の民の記憶が記紀神話に取り入れたものである。天孫ニニギの息子である山幸彦が豊玉彦の娘豊玉姫との間に設けたのがウガヤフキアエズで、ウガヤフキアエズが豊玉姫の妹玉依姫との間に設けたのが、後に神武天皇となったイワレヒコである。つまり、皇統には、二代にわたって海神の血が入っているのである。この神社の鳥居と社殿の配置は、「安岐の宮島」として知られる厳島神社(宗像三女神を祀るとそっくりである。しかし、厳島神社は推古天皇の御代(6世紀末)に鎮座したが、この対馬には、宗像大社の「沖津宮」が鎮座する沖ノ島同様、弥生時代の祭祀跡もたくさん残っており、この和多都美神社のほうがはるかに歴史が古い。それにしても、朝鮮半島の南端からわずか50kmしか離れていない対馬に記紀神話と直結した話がたくさん残っているというのは、いったいどういうことであろうか? そのひとつが今回のフィールドワークの目玉である「磯良恵比須」を見ることである。私が和多都美神社を訪れた時は、ちょうど干潮時であったので、産卵のために上陸したウミガメの甲羅のような形をした波打ち際の自然石を独特の「二本鳥居」で結界した「磯良恵比須」を境内の二カ所で拝することができた。

島の北端の港町に、島大國魂御子神社が鎮座する。この神社は鳥居の脇に聳え立つ杉の巨樹の脇から階段を延々と上らなければ、本殿に到達できない。途中、何本かムクロジの木が生えていたから、仏教との習合も意識させられる。釈尊が「硬いムクロジの実を108個、穴を空けて紐で繋いで数珠を作れ」と説いたそうである。「島大國魂御子神社」は立派な式内社である。それにしても、千年以上も前に編まれた「延喜式神名帳」に、「この「絶海の孤島」対馬に鎮座する多くの神々が記録されていることには、驚きを禁じ得ない。因みに、中国や韓国は、20世紀の中頃に至るまで、日本海や東シナ海に浮かぶ島々の位置を彼らの地図に描くことができなかった……。対馬の神社は、波打ち際に鎮座しなければ、たいてい山の山の上に鎮座する。対馬の大きいなる國魂とは、いったいどういう神々なのだろうかという興味が尽きない。

11月22日、対馬中央部の外海(玄界灘側)に面した地に鎮座する鴨居瀬住吉神社を訪れた。和多都美神社前のような深いリアス湾の奥まった淀んだ海ではなく、鴨居瀬住吉神社を囲む海の水は透明度が抜群である。万葉集第16巻に「紫の粉濁の海に潜く鳥玉潜き出ば我が玉にせむ」と、山幸彦と結ばれた豊玉姫がウガヤフキアエズを出産する場面を詠んだと思われる場所に鎮座する住吉神社である。

実は、住吉神社はもうひとつある。対馬空港に近い鶏知住吉神社である。この神社は、神功皇后が新羅からの帰還の折に鴨居瀬の住吉神社を勧請してこの地に行宮を建て、和多都美神社を造営したと伝承されている。豊玉姫とウガヤフキアエズ、神功皇后と応神天皇(八幡神)、どちらも母と息子の物語である。そこに深く関

わる和多都美や住吉という海神たち……。鴨居瀬や鶏知といった鳥との関連を嗅わせる神社(地名)……。今回の対馬でのフィールドワークで多くのインスピレーションを得た。

最後に、海神神社を訪れた。全国に「海神神社」と名乗る神社は、ここと奈良県五条市の海神神社の二社だけである。他に、神戸市と和歌山県紀の川市に「海神神社」がある。この神社は、式内社の明神大社で対馬国一宮である。神功皇后が三韓征伐の帰途、旗八流をこの地に収めたことから、八幡宮の本社となった。また、仁徳天皇の時代に、この山から起こった奇雲烈風が夷狄の軍船を沈めたという伝承もある。明治4年に八幡宮から和多都美神社と改称し、さらに、明治5年に海神神社と再改称され、祭神も八幡神から豊玉姫に変更されたが、中世には神宮寺であった。

「海神神社」という社名とは裏腹に、第一の鳥居から本殿までの階段が途中で二度折れ曲がって延々と続いた。山上に鎮座する立派な本殿は西方を向いており、おそらく朝鮮半島から侵攻してくる夷狄を靈的に封じるための社殿の配置になっているものと思われる。今回のフィールドワークを通して、海神との関係から、日本における神祇崇拜と国家成立の原点の端緒に触れることができた。



山頂から朝鮮半島を睨んで鎮座する海神神社

# 第23回国際神道セミナー 『神々とスポーツ』 報告

3月13日、東京駅に隣接するサピアタワー内の関西大学東京センターにおいて、特定非営利活動法人神道国際学会の令和2年度社員総会と第23回国際神道セミナー『神々とスポーツ』が開催された。新型コロナウイルス感染症の拡大期に入っていたため、社員総会は大抵が委任状提出による参加方式で、また、セミナーもソーシャルディスタンスを確保するため、十分な座席間隔を空けて開催された。

## 令和2年度社員総会

3月13日午後1時、定款に則り三宅善信理事長が、特定非営利活動法人神道国際学会の令和2年度社員総会の開会を宣言した。新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックに伴う欧州各国からの入国規制を目前に控え、マイケル・パイヤ会長の来日が適わなかったことを三宅理事長が説明し、その上で、宇根希英事務局長から「社員数431名中、265名（委任状含む）の出席により社員総会成立」の確認がなされた。続いて、出席役員の紹介と議長選出が行われ、塩谷崇之常任理事が議長に選出された。



塩谷崇之常任理事

3年度事業計画ならびに予算案について理事長から提案され、承認された。さらに、第3号議案として、事務局移転に伴う「定款」の記載事項の一部変更が承認された。最後に、第4号議案として、役員任期の変更と改選が行われ、退任した2名を除く11名が再任され（役員の一覧は8頁参照）、社員総会は無事閉会した。



鳥船を実際に体験する聴講者一同

## 『川面凡児の身体作法』

続いて、午後1時半から、東京オリンピック年に因んで、第23回国際神道セミナー『神々とスポーツ』が開催された。最初の講演は、元帝京大学教授の宮崎貞行氏が『川面凡児の身体作法』と題して、明治・大正期に活躍し、神道式の禊修法を確立した思想家である川面凡児（1862-1929）の神観と人間の構造理解に基づく神人合一の方法論について解説した。川面凡児は、近代化の波が押し寄せた明治の日本思想界にあつて、西洋哲学の根幹である精神と身体を区別して考える「霊肉二元論」を超越する形で登場してきた新プラトン主義の説く「一者からの流出」あるいは「一者への帰一」という思考様式を援用して、神道における新しいカミ理解の方法を提唱した。

川面における日本のカミとは、「一神にして多神、



講師 宮崎貞行氏

多神にして汎神、創造神にして生成神」であり、人間とは、「身体（肉体）、心体意識、霊体（最高意識）という三層構造を持つ存在で、最高意識が受肉した存在という意味ですべての人間は現人神である」と認識され、それ故、「意識からでなく身体からカミを掴まなければならぬ」とした。宮崎氏は、そのための動的瞑想法として、①鳥船、②御稜威呼吸、③魂殖り、④神人合一という四段階の身体作法を実演してみた。

①鳥船とは、櫓舟を漕ぐような動作である。②御稜威呼吸とは、天地宇宙に充滿しているとされる御稜威と呼ばれる神気を口から呑み込んで下丹田に運ぶ動作である。③魂殖りとは、下丹田の前で握った右手を振動させながら肩の上方ま



講師 アレック・ベネット氏

でもってゆき、神気を増殖させる動作である。④神人合一とは、増殖しきった神気を神名を唱えながら一気に振り下ろすことによつて、この一連の身体動作を行う者と天地宇宙に充滿している神気とを合一させる修法である。

川面凡児は、明治の近代主義の時代に「神ながらの道」たる古神道を再解釈し、大本の出口王仁三郎の「万教同根」や大倭教の矢追日聖の「還元帰一」や合気道の植芝盛平らに大きな影響を与えた。

## 『宗教とスポーツ…様々な観点』

二人目の講演は、ニュージールランド出身で剣道七段の関西大学教授のアレック・ベネット氏が『宗教とスポーツ…様々な観点』と題して、従来の武道家としての観点に加えて、昨秋日



感染防止のため間隔を空けて聴講した

本で開催されたラグビーワールドカップの際に、ウェールズ代表チームのリエゾンオフィサーとして1カ月間ラグーマンと行動を共にした経験から、宗教とスポーツの関係性について持論を展開した。因みに、ニュージールランド人にとつて、「ラグビーは国家的スポーツ」であるそうである。ベネット氏は、米国の文化人類学者クリフォード・ギアツによる宗教の定義「宗教とは①象徴の体系であり、②強力で広く行き渡った永続的な気風と動機を人々の中に確立させるべく作用する。この目的達成の手段として、③一般的な秩序についての様々な概念を創り出し、かつ④真実めいた雰囲気とこれら概念に纏わせる。そのため、⑤そのような気風と動機が比類なく現実的に見え

る」を援用して、「内なる超越的な体験ができるスポーツは宗教の代替物として見ることで、その超越的な体験を共有する空間であるスタジアムは大聖堂のようなもの」であると、宗教との類似性を指摘した。

たらし、揃いのユニフォームを着て、旗やマスコットを持って応援し、エールやブーイングやウェイブ等で一体感を得る。スタジアムに集まった人々が平凡な日常から脱出して超越的な体験を共有する。ラグビーワールドカップにおいても、信仰・献身・崇拝・儀式・犠牲・精神・祈り・苦しみ・祭り・祝賀など、選手たちに求められる行為の多くは、「宗教的な行為」と共通するものであったと、実例を挙げながら非常に解りやすく説いた。

さらに、剣道の指導に訪れた熱心なイスラム教国であるイランでは、空手や柔道をはじめとする日本武道が幅広く受け入れられており、各流派の創始者がイスラム革命の指導者と同様に尊敬されていることに驚いた経験を報告し、心技体の充実を目指す武道家としての自身の半生を「終わらなき自分発見の旅である」と表明した。

チームのラグビー選手だった経験を有する常任理事の芳村正徳神習教教主をパネリストに加えて、三宅善信理事長のモデレーターによるパネルディスカッションが行われた。

の道具であり、邪気邪霊を祓うために用いられたと述べた。ベネット氏は、古代ギリシャのオリンピック祭は、やり投げ、円盤投げ、レスリング、マラソン等、戦闘技術を競うためのものであった。一方、日本の剣道には「殺人剣・活人剣」という考えがあり、本来忌むべき存在である武力も、一人の悪人を殺すために用いることで、万人を救い「活かす」ための手段とならねばならないと述べた。また、モデレーターからは、合戦というものは、単なる戦闘力の大小だけではなく、兵糧や情報操作から、神仏への祈祷まで含めた総合力の戦いである。平時でも、村を東西に分けて綱曳きを行ない、勝った方に産土神がその年の豊作をもたらすというような模擬戦闘が行われるが、実際には、負けた方は一層頑張つて勤労に精を出し、その結果、豊作を得、勝った方は祝福してくれ、神々に恥をかかせな

いたために勤労に精を出し、豊作を得るというウインウインの構造になっている。神道の神々は、人々の「善なる行い」を褒めるのではなく、「より熱心に取り組んだ人」に祝福をもたらしものであるとして、『神々とスポーツ』と題した第23回国際神道セミナーを締めくくった。

最後に、本学会常任理事の塩谷崇之秩父今宮神社宮司が閉会の挨拶を行い、新型コロナウイルス感染拡大で、参加しにくい中を参加してくださった方々と講演者、また、取材に来てくださったマスコミ各社への謝意を表して、予定通り、午後5時前に閉会した。



パネリストと聴講者の間で真剣なやりとりがなされた

パネルディスカッション  
と質疑応答

講演に続いて、この二名の講師に加えて、自身も若い頃、國學院久我山高校・明治大学、東芝府中と名門

「神から頂いた身をどのように使おうか」ということを意識するようになって、監督の言葉の真意が理解で



三宅善信理事長

きるようになり、ある意味「宗教的な言葉」だと思ふようになったと述べた。



スポーツの中の宗教性について熱く語るパネリスト

## 『コロナ禍で見直される日本の生活様式』

金光教春日丘教会長/株レネット代表 三宅善信

中国の武漢に端を発する新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者総数が1,000万人を超え、犠牲者数も50万人（7月1日現在）と、その増加の勢いは留まるどころを知らない。ちょうど100年前、人類を恐怖のどん底にたたき落とした新型インフルエンザ（「スペイン風邪」）以来のパンデミックが起きた年として、2020年という年は人類の歴史に刻まれることになるであろう。

私はこれまで、本連載シリーズにおいて、『インフルエンザと七草粥』（2006年1月）、『遣唐使がもたらした伝染病と神々』（2007年9月）、『インフル・金融ダブル危機』（2009年1月）と再三にわたって、中国発の新型感染症のパンデミックとそれに伴う国際金融危機について問題提起し、昨年2月には『風邪見鶏：人類はいかに伝染病と向き合ってきたか』を刊行して社会に警鐘を鳴らしてきたが、遂に私の恐れていた新型コロナウイルスのパンデミックが起きてしまった。

また、相当数の人間が感染症に罹患して死亡することよりも、大規模な都市封鎖による経済的打撃によって、はるかに多くの人々が回復しがたい経済的ダメージを受けた。この痛みを緩和するために、そしてそれが金融経済恐慌に発展するのを避けるために、世界各国で緊急経済

対策として未曾有の財政出動が行われたが、このことは、それだけでなくも苦しい国家財政にさらに大きな借金を背負わせ、われわれの子供や孫の世代にまで、負債を残すことになった。

しかし、ここまでは十分私の予想の範囲内であったが、想定外であったことは、2003年に流行したSARSの時とはまったく異なり、今回の新型コロナウイルスに罹患する人の数が、その発生源である中国国内よりも人口密度が低く、都市環境がより衛生的で、医療施設をはじめとする社会インフラがはるかに充実していると考えられていた欧米の先進国で、より深刻な感染爆発を引き起こしたということである。民主主義国家では難しい都市封鎖をはじめとする相当厳しい社会的制限措置を執ったにもかかわらず、何十万人といういのちを奪われた。そんな中で、厳しい都市封鎖などを行わなかった日本での感染者数や死者数が、他の欧米先進国と比較して著しく低いことも話題となった。

私はその原因として、以下の3つを想定する。まず、欧米と東アジアでは、人と人とのソーシャルディスタンスが異なる。親しい人と出会った際に、握手やハグやチークキスを日常的に行っている欧米人たちと比べて、日本式の「お辞儀」や

東南アジア式の「合掌」とでは、相手との間隔も異なるし、相手の身体に直接触れることもない。国際的に見て、日本の社会は「清潔すぎる」くらい清潔であるが、お世辞にも「清潔である」とは言えない東南アジアでもコロナ感染者数が少ない理由はここにあると思う。

次に、欧州語と東アジアの諸言語とを比べると、欧州語は破裂音や巻き舌音がとても多いので、正対して会話をする相手に唾がかかる危険性が断然大きい。さらに、日本人をはじめとする東アジアの諸民族と比べて、欧米人のほうがはるかに肥満率が高い。今回の新型コロナウイルス感染症が、呼吸器を通じて飛沫感染すると言いつつ、一度宿主の体内に取り込まれると、気管や肺といった呼吸器だけでなく、循環器系を通じて体内の血管網を巡るので、肥満による血管障害諸病に致命的悪影響を及ぼす。

これらの3点で、われわれ日本人のいのちがより強く護られているのだとしたら、医療技術や保健制度の勝利というよりも、古来日本人が大切にしてきた清浄さや、柔和さや、慎ましい生活様式がわれわれのいのちを守ってくれているということであると言える。

今気づく、  
対面的生活の素晴らしさ鈴木 岩弓  
東北大学 総長特命教授

三大新聞の中で、「原因不明の肺炎」が中国で流行し出したことを最初に報道したのは『毎日新聞』。正月休みが明けた1月6日のことであった。その後海外からの帰国者や来訪者などの中にこの肺炎の患者が見つかりだし、日々告げられる日本国内における患者数の増加は、中国や西諸国など世界中の蔓延状況と並んでわれわれの重大関心事となった。WHO（世界保健機関）は2月11日になってこの肺炎を「COVID-19」と命名し、その一か月後の3月11日にはこの病気の加速度的な拡散を「パンデミック（世界的大流行）」と認定した。奇しくもこの日は、わが国が東日本大震災という「未曾有」の災害に見舞われてまる九年を迎えた節目の日であった。われわれは、あれから10年経たないうちに、感染症の大流行という新たな「未曾有」の真つ只中に直面することとなったのである。

この肺炎への対応策が出されるや、3月以降、われわれの生活には顕著な変化が起こり、時間経過と共にこれまで経験したことのないような新たな状況での生活を強いられることとなった。それに伴いわれわれの周りには、そうした状況を表現する新語が多数登場してきた。それらの語は造語のみならず、以前までは限定的な専門領域で用いられてきた用語が、広く一般語として使われるようになったものも数多い。「新型コロナウイルス」の語をはじめ、医療現場から発せられた「クラスター」「PCR検査」「発熱外来」「医療崩壊」「ア

ビガン」、政策現場から発せられた「緊急事態宣言」「3密」「ステイホーム」「ソーシャルディスタンス」「新たな生活様式」「ウィズコロナ」、そうした中を生きていく現場社会から広まった「アベノマスク」「自粛警察」「同調圧力」「コロナ・ハラスメント」「テレワーク」「オンライン飲み会」などなど、ユーキャンが毎年行っている新語・流行語大賞の候補となる語には、今年はコロナ関連用語が多数登場することは必至であろう。こうした新語を眺めてみると、コロナ対策として人と人との接触を避ける事を推奨する用語が多く登場したことがわかる。つまり「対面」を極力避けることを謳った標語が、陸続と生まれてきたのである。そうした時、握手やハグと言った身体接触がコミュニケーションツールとなっていている欧米の国々とは比べ、日本をはじめ東アジアの国々のコロナによる死者総数が極端に低いことに対し、人と人との距離を測る価値観の違いが、自然現象としての病気の伝播状況に違いを生んでいるのではないかという指摘がなされたことも興味深い。

人類の歴史はその初期以来、家族などの小集団内の人々との対面的コミュニケーションを基本として営まれてきた。その後、人類は生活のより快適さを求め、その環境自体を変化させたり、環境への働きかけの方法を変化させたりすることで新たな生活様式、すなわち文化を生み、文明を歩かせてきた。その結果、人類は小集団から大集団での生活へと移行し、現

在見るような都市集住生活を作り出してきたのである。そうした展開の中、人間関係は、対面的コミュニケーションのみならず、非対面的コミュニケーションをも併用しつつ、対面的関係と非対面的関係がある程度のバランスをもって保たれていたのが、つい最近までの人類の生活だったと言って良いであろう。

しかし近頃世を席巻しているウイルス対策でなすべき防衛策の根本は、「非対面」の推進である。足かけ10年前、震災被災地の人びとを勇気づけたキーワードは「絆」で、この語を合い言葉に対面的活動が行われ、大きな成果を上げてきたことを思い出すと、真逆の志向である。今回テレワークの実効性に気づいた人も多く、在宅勤務をスタンダードに考え直そうという企業も出ていると聞くが、対面的人間関係を全くゼロとした生活はありえないだろう。コロナ禍終息後、気を遣わずに対面的生活が出来る日が来ることを心待ちにしている。

第24回国際神道セミナー  
『神々と伝染病』開催

9月13日

詳しくはウェブサイト





## 話題のこの人

### 理工系の学生の宗教リテラシーを高める

東京工業大学 教授

# 弓山 達也

新型コロナウイルスの流行により、各大学とも今年度の講義がオンライン授業となっていた。そんな中、東京工業大学以下、東工大の弓山達也教授に、新型コロナウイルス流行と宗教文化教育について伺った。

## ——コロナ感染防止のためのオンライン授業ですが、現場はいかがですか？

複数の大学でオンライン授業を持つているのですが、様々な気づきがあります。一つは、残念なことに大学によって親の経済格差が顕著に見えたことです。偏差値の高い大学の学生ほど、パソコンを持ち、自分専用の個室から、良い通信環境で参加できる傾向にあります。「子どもの偏差値は親の年収に比例する」と言われますが、それをデータとしてではなく具体的に実感しています。

一方で、このような現実を目の当たりにすると、教育者というのは学生のこと心配で仕方がない。以前ならレポートが間に合わない学生には自己責任だとしていました。が、今は、授業の途中で回線が切れてしまった学生には提出期限を猶予するなどしています。どんな環境の学生も同じに扱うことが「公平・公正」という常識がありました。が、それは決して「平等」ではなかったと気づかせてもらいました。教員が学生のことを考え心配している、これはコロナ禍のポジティブな面だと思っています。

また、通常の大人教養では、質問や発言はほとんど出ないのですが、オンラインだと活発に発言が

出たり、学生がIT関連のアドバイザーをくれたりします。教員と学生の関係がフラットな、「理想的な学びのコミュニティ」ができています。

これは宗教界でも同じことが言えます。オンライン法要になって人が増えたと聴きます。今まで縦の関係だったお坊さんと参列者が、オンライン上ではフラットな関係になり、対面では出なかった「なぞお布施を払うのですか」「亡くなった祖母はどこに行ったのですか」などの質問がダイレクトにくり出するのではなく自分自身の言葉で答えなくてはならず、宗教者自身にとってはチャレンジですが、宗教界にとって良い刺激だと思えます。

## ——「理工系学生の宗教リテラシーを高めるための授業」というのは、オウム真理教による一連の事件への対応ということでしょうか？

もちろん、それもあります。ただ、本学としての考えはもっと広いんです。そもそも、第二次世界大戦の反省の上に当時の学長が「文化の他分野との関連に於てなされる健全なる価値判断に従って」と、自主的思考力と創造的能力に力を入れる教養教育の重視に舵を切りました。理工系のトップになるためには、理工系の知識だけでは絶対には、創造性・社会性・人間性などのプラスアルファが必要になってくるのです。その中に、私の宗教学の授業もあり、学部生だけでなく大学院生にも教えています。

上智大学神学部の学生と議論をしたり、滝行や天理教の正月行事

を体験したりすると、学生たちは、まずは驚きます。受験勉強をして就職のために勉強をしてきた自分とは違う価値観を持ち、まったく違う人生を歩む人が、同時代の、同じ国の、同世代に、居るといふ事にショックを受けます。

こうした多様性を学ぶことは理工系の学生だけでなく、宗教者の子弟教育にも言えることでしよう。宗教の多様性を知り、自分の宗派では当たり前なことが一般社会ではどうなのか目を向けることが、重要なことです。

## ——そのような学びは、本人や社会にどのような影響を与えるのでしょうか？

自分の価値観を明確にし、違う価値観とぶつかる経験は、学生たちに大きな収穫を与えていると思っています。単にカルトに入ってしまったわなようにということももちろんありますが、それだけでなく、個人のレベルで彼らの人生を確実に豊かにするものです。

社会という観点で言えば、東工大の学生は卒業後、例えば、遺伝子操作や原発などの国家事業の中枢に進む者も多いですから、彼らが多様な価値観や反対意見を知ることが大切です。東工大の学生ははじめから、仕事を与えられたら、早く正確に大量にやらなければならぬと考えてしまいがちです。そこで、ちょっと立ち止まって、倫理観を持って種々の問題に目を向けることができたなら、それは社会への大きな貢献だと思っています。

# カリフォルニア大学サンタバーバラ校 神道研究講座の新企画「雅楽プロジェクト」

ファビオ・ランベッリ Fabio Rambelli  
カリフォルニア大学サンタバーバラ校 教授

カリフォルニア大学サンタバーバラ校の神道研究講座主任を務める私を中心に、日本文化の総合的で学際的な理解を深める試みとして、奈良時代以前から日本に伝わる雅楽を展開する新しい企画が始まった。

その出発点は、2019年3月に日本から奏者3名を招いて開催した、公開講演、ワークショップ及び公演会だった。笙の奏者および作曲家である真鍋尚之氏をはじめ、三管笙、篳篥、龍笛を中心に、雅楽の歴史や、それぞれの楽器の特徴や奏法を説明して、200名以上の来客に雅楽のレパートリーを幅広く紹介した。神楽歌、唐楽、高麗楽、そして現代音楽まで、雅楽のバラエティーとその可能性を提示したのである。

また、2020年3月に大規模な企画を実現した。真鍋氏がプロデュースする豊秋先生の新しい雅楽アンサンブルをカリフォルニアに招いて、様々なイベントを開催したのである。豊秋先生は、元宮内庁式部職楽部首席であり、豊原家の末裔で1300年以上、宮廷で笙の道を伝える家の長い歴史を担うユニークな方である。最初に、スタンフォード大学での公演500名以上上巻と講演、続いてカリフォルニア大学サンタバーバラ校での公演2回（全部で260名来客）および多岐にわたるテーマのワークショップ10回（雅楽の歴史、装束、舞の舞、それぞれの楽器/全部で130人参加と、とても充実した雅楽の体験であった。公演で古典の雅楽の幅広いレパートリー——神楽歌、舞楽右の舞、左の舞、管弦、そして笙の調子——を

演奏し、とても成功したイベントであった。カリフォルニアで日本からのフルオーケストラの雅楽は、約50年ぶりであった。

実は、カリフォルニアでは、雅楽は日本の伝統として長く続けられてきた。1910年代に、浄土真宗系の寺院がカリフォルニア各地で儀礼音楽として雅楽を行っていた。しかし、戦時中は、反日の影響で雅楽が取り止められ、多くの楽器や装束が破壊されたのである。現在、カリフォルニア州内で雅楽が行われるのは、三カ所浄土真宗系の寺院2つと天理教会1つのみである。

これを機に、カリフォルニア大学ロスアンゼルス校の民族学部から雅楽楽器のセットを借り、サンタバーバラで本格的な雅楽の授業を始めた。現在のところ、大学院生などは龍笛、篳篥、そして楽琵琶を習っている。これからは、他の楽器の学習チャンスを増やし、本格的なアンサンブルを結成する予定である。これからは、日本から楽人を招いて実技ワークショップを開催して直接学生を教え、そしてオンラインで遠隔授業を行うという形で展開しよう、いま準備を進めている。COVID-19の影響で大学が封鎖され、しばらく企画を保留せざるを得ないのだが、開放されたら本格的な計画の段階に入る予定である。

また、楽器や舞、歌だけでなく、雅楽の文化史（音楽思想、儀礼や作法の体系、楽人の社会学など）について、講義や演習で教える予定もある。雅楽を通じて、日本古典文化の多くの側面に触れることができるので、学生や

院生には、とてもよいきっかけになると考えられる。

私は2017年から東京の小野照崎神社の小野雅楽会で、元宮内庁式部職楽部首席豊秋先生のもとで笙を学んでいる。ちなみに、小野雅楽会は1887（明治20年）に設立された歴史ある雅楽アカデミーである。笙とは、ある意味では、過去の生きた化石のようなもので、過去になくなってしまった感性や奏法や音を再現できる珍しい楽器でありながら、いま世界中の現代作曲家によって再生され、未知で多くの可能性のある楽器として生かされている。

カリフォルニア大学サンタバーバラ校の「雅楽プロジェクト」の成功に向けて、これからも、皆様のご理解とご協力をよろしく申し上げます。



いなばじんじや  
伊奈波神社

● 岐阜県岐阜市伊奈波通1-1

現在NHKで放送中の大河ドラマ『麒麟がくる』は、戦国武将明智光秀の生涯を描いたものである。武将としての光秀は、「美濃の蝮」と恐れられた斎藤道三の下で頭角を現し、道三が息子斎藤義龍に弑された後は、足利將軍家に仕えた。その後14歳で父義龍の家督を継いだ斎藤龍興の稲葉山城を織田信長が攻め滅ぼし、居城を尾張国の清洲城からより都に近い美濃国の稲葉山城に遷し、天下統一への野望を込めてこれを岐阜城と改めた。その織田信長と足利將軍家とを繋ぐ役割を担って、再び明智光秀が故郷である美濃国に戻ったということは、戦国時代劇ファンなら誰でも知っている話である。斎藤道三が稲葉山城を築くために、稲葉山(現、金華山)頂に鎮座していた伊奈波神社を山麓にある現在の境内地に遷して稲葉山城の鎮守となり、その後の支配者は代われども、岐阜の総産土神として地域の人々から崇敬を受けた。

社伝によれば、垂仁天皇の嫡男であった五十瓊敷入彦命は朝廷の命により奥州を平定したが、彼の成功を妬んだ陸奥守豊益の讒言により、朝敵とされこの地で討たれたという。その後、弟の大足彦尊が景行天皇として皇位に就き、武内宿禰に命じて、兄である五十瓊

敷入彦命とその母、妃、外祖父と功臣であった物部十千根を合わせて「伊奈波大神」としてこの地で共に祀らせたことに始まる。



伊奈波神社本殿で玉串を奉奠する三宅善信理事長

伊奈波神社は信濃国の諏訪大社同様、朝廷の東国経営の重要拠点のひとつであった。7世紀後半の日本を揺るがした壬申の乱の際にも、吉野からいったん尾張国へ逃れて体勢を立て直した大海人皇子が伊奈波神社で戦勝祈願を行い、大津京に居た甥の友友皇子を滅ぼし、天武天皇として皇位に就いたことからも判るように、畿内と東国を繋ぐ要所としてのこの地の戦略的価値は、織田信長の時代になっても変わらず、その意味で美濃国は常に「争いの地」であった。

現在の伊奈波神社は、岐阜市の中心部にもかかわらず、酒掃の行き届いた広い境内と立派な

社殿楼閣が薨を並べ、4月上旬の例祭ならびに神幸祭を中心に多くの祭事が厳修され、伊奈波大神にお仕えする宮司以下神職の方々の神明奉仕の姿勢がよく現れている。私が伊奈波神社を訪れた2018年3月末は参道の桜も満開で、その前の月に宮司に就かれたばかりの上杉千文先生ご夫妻が鄭重に歓迎してくださった。正式参拝の後、本学会の会員でもある上杉宮司から、伊奈波神社の由緒や祭事、また境内諸殿について詳しい説明を拝聴した。

「新型コロナ自粛」によって、光秀ブームの出鼻を挫かれた感もあるが、長良川の鶺鴒いの再開により、岐阜城共々より多くの人々が伊奈波神社を訪れ、古代から中世、近世、現代まで続く、この神社の歴史についてより多くの人々が関心を抱くことに期待している。



大勢の参拝者で賑わう伊奈波神社の祭礼

# ノルウェーにおける コロナの春

マーク・テューウェン Mark Teuwen

オスロ大学教授

ノルウェーでは、コロナウイルスは2月下旬に、スキー観光客がオーストリアでの「アフタースキーパーティー」から持ち込んでしまいました。最初はあまり心配していませんでした。つまるところ、武漢からオスロまではあまりに遠く、その時点では、私たちの行く先に何があるのかを予測する想像力に欠けていたのです。その後、3月13日の金曜日、この国は突然、封鎖されました。

その日、午後4時に私は大学からメッセージを受け取りました。2時間後に大学の全ての建物が無期限で閉鎖されるといいます。私は、必要な記事のコピーや本をいくつかの箱に詰め込み、妻に車で迎えに来てくれるように頼みました。それから5月中旬まで、私は自分のオフィスを見ることはありませんでした。授業と会議は次の月曜日からZoom(註:オンライン会議システム)に移行しましたが、それまでZoomについて知っている人は、ほとんどいませんでした。

不思議な時間でした。私たちは家にいるように求められ、そして概ね、人々は従いました。私の妻は小学校で働き続けましたが、医師や看護師、公共交通機関の運転手、警察など、必要な職業に就いている親の子供たちだけが登校できました。私も、やらなければならぬ仕事がありました。当初は、状況が大変でした。当初は、状況が深刻に思え、家族や隣人との接触も避けました。私は幸運でした。私の給料は支払われ続けたの

です。それでも、一人で家に座り、考え始めます。この状況は、社会にどのような恒久的変化をもたらすのだろうか？ 経済は崩壊するのだろうか？ 海外に住んでいる年輩いた両親にまた会うことはできるだろうか？ 多くの学生が、アルバイト、社会生活、教師や学生仲間との繋がりを、全て同時に失った今、彼らはどのように対処しているのだろうか？

しかし、危機の時にこそ発生する連帯感もありました。ノルウェー国王は、この試練の時に、信頼と親切の必要性についてお話しされました。首相はノルウェー人の相互扶助 (altruism) の概念に訴え、誰もが共通の利益のために犠牲を払わなければならないということを示唆しました。そして、それはうまく機能し、人々は個人的なニーズを脇に置いて、静かに耐えたのです。

ロックダウンは、ノルウェーで最も重要な2つの宗教的祭典、イースターとラマダンの直前に行われました。教会とモスクは閉鎖されたままで、儀式はZoomで行われ、驚くほどよく出席されました。ノルウェーのルーター派教会は、すべての人に、弱者のケアをするよう呼びかけました。ホームページで「多くの人の人にとって、孤立は孤独、恐怖、抑うつを意味し、また、虐待や暴力を経験する可能性があります。電話やソーシャルメディアでしか表現できなかったとしても、今こそ、善き隣人や親切心が何より大事です」とメンバーを励ま



しました。モスクは、集団礼拝の代わりにしてのデジタル礼拝は承認せず、しかし、家族との祈りを、または他に選択肢がない場合は個人的に祈ることを人々に奨励しました。体調面で断食できないと感じた人には、断食を延期するか、代わりに寄付 (Sadaqa) をするように勧めました。ノルウェーイスラム連合会は、隣人や、病気の、高齢者、貧しい人の面倒を見るという宗教的義務を強調しました。ノルウェーのラマダンは、初めて、オスロでのドライブイン集会で終わりました。そこでは、全国のイスラム教徒が集まりイードを祝いました。

今、夏になり、未だ多くの問題が未解決のままであり、Zoomは相変わらず私たちの生活と共にありますが、緊急事態は過ぎ去りました。コロナはほとんどなくなり、新たに発症する人は日に片手で数えられるほどであり、入院患者はほとんど居なくなりました。守らなければならない多くのルールがあるとは言え、教会やモスクは再び開かれました。しかし、残念なことには人々がコロナ以前の日常に戻りたいと急いでいるので、より親密で、環境に優しく、非破壊的な社会再構築理念は影が薄れてしまったように見えます。ノルウェーはこの大流行において非常に幸運でした。しかし、ロックダウンが私たちに教えるべきであった教訓が、すでに忘れられているかのように感じてしまいます。

# 戦前と戦後を

## つなぐ艦内

### 神社(後編)

久野 潤  
大阪観光大学国際交流学部講師

本稿前編では、遣唐使船や古代中世の軍船で奉斎された神社の例や、近代的な艦内神社の歴史としての艦内神像などを取り上げた。後編ではいよいよ、近代日本における艦内神社に触れたい。

#### 軍艦の守護神となった

##### 氏神社

家庭の神棚では一般的に伊勢の皇大神宮、氏神社を祀りされている。戦前の大日本帝国海軍(以下「海軍」)軍艦の艦内神社をこれになぞらえ、と、崇敬神社については海軍の守りにゆかり深い鹿島神宮や厳島神社、東郷神社などになるが、各艦を特徴づけるのはやはり氏神社である。

地名由来の艦名をもつ軍艦の場合、戦艦は旧国名または我が国の美称、重巡洋艦や旧巡洋艦(あるいは戦時急造空母)は山岳名、軽巡洋艦は河川名から採られるのが通例である。そして軍艦の「氏神社」分霊元となったのが、たとえば戦艦「大和」ならば旧大和国に鎮座する大和神社(現・奈良県天理市)、重巡洋艦「愛宕」は愛宕山の愛宕神社(全国の愛宕神社総本社、京都市右京区)、軽巡洋艦「川内」は川内川沿いの新田神社(薩摩国一之宮、現・鹿児島県薩摩川内市)であった。

各艦と神社の付き合いも、単に御祭神を分霊したというだけではなく、折に触れて艦長以下乗組員たちの参拝があった。足を運んでの参拝が困難になった戦時中でも、先述の新田神社では、昭和16年(1941)1月に「川内」艦載機による

参拝と通信筒投下が行われ、神社側も「飛行機修祓」で応えた。また、日米開戦後も数度にわたり新田神社神職が「川内」艦内神社例祭のため佐世保へ出向している。それ以外の軍艦「氏神社」分霊元の神社でも、乗組員による賽銭や記念品の奉納、そしてそれを地元の首長や名士たちが歓迎した様子が記録に残っている。海軍により郷土が護られ、郷土の各地域により神社が守られ、そして神社が海軍や各軍艦の武運長久を祈願するという麗しき相互関係が現出していたのである。

#### 疫病克服と艦内神社、

##### そして祭祀への回帰

日米開戦前年の昭和15年11月に海軍省から出された「艦船部隊官術学校等ニ於ケル祭神奉斎ニ関スル件」では、海軍関係の神社について「天照大神ヲ主神トシテ神座ノ中央に奉斎ス」と定められ、全ての艦内神社で皇大神宮の分霊が奉斎されることとなった。分霊の際に授与される皇大神宮の別大麻(特別御神幣)は、もともと特別な許可を受けた神社や海外公民団のみが対象であったが、軍艦では大正9年(1920)に初めて戦艦「伊勢」(大正7

年竣工)で奉斎された。大正六年のロシア革命を受けて我が国でも共産主義勢力が広がりつつある情勢の中、日本古来の神々への崇敬心を回復させたい神宮側と、明日の運命をも知れぬ海軍将兵の思いが一致したところもある。現在の海上自衛隊でも、護衛艦「いせ」をはじめ多くの自衛艦の艦内神社

で天照大神がお祀りされているという。

今からちょうど100年前、防護巡洋艦「矢矧」の艦内に矢作神社(現・愛知県岡崎市)の分霊が奉斎された。

「矢矧」では第一次世界大戦に参戦して帰投の途上、第一次世界大戦期に発生したスペイン風邪(大戦の戦死者約1000万人に対して、死者2000万人以上の集団感染が発生し、乗組員および便乗者469名中442人が罹患し、48名の死者を出す大惨事となった。帰国後に艦長以下「矢矧」乗組員が自らの欠けるところを省みた結果として艦内神社がお祀りされ、そのうち海軍で艦内神社が通例となる契機となったとされる。第十代崇神天皇の御代に国中で疫病が発生して祭祀が省みられ、皇居内でお祀りされていた天照大神が皇居外に出されたことが神宮創建につながった話を想起させるものである。

海上自衛隊においても、近年艦内神社の存在が支援者・見学者に広く知られるようになってきている。艦内神社は戦前と戦後の国防をつなぐ象徴的存在であり、日本再生も歴史や祭祀の連続性の自覚から始まるのではないだろうか。



矢作神社境内に平成31年4月に建立された石碑



## 空海の伊勢参り

マイケル・パイ(マールブルク大学名誉教授)

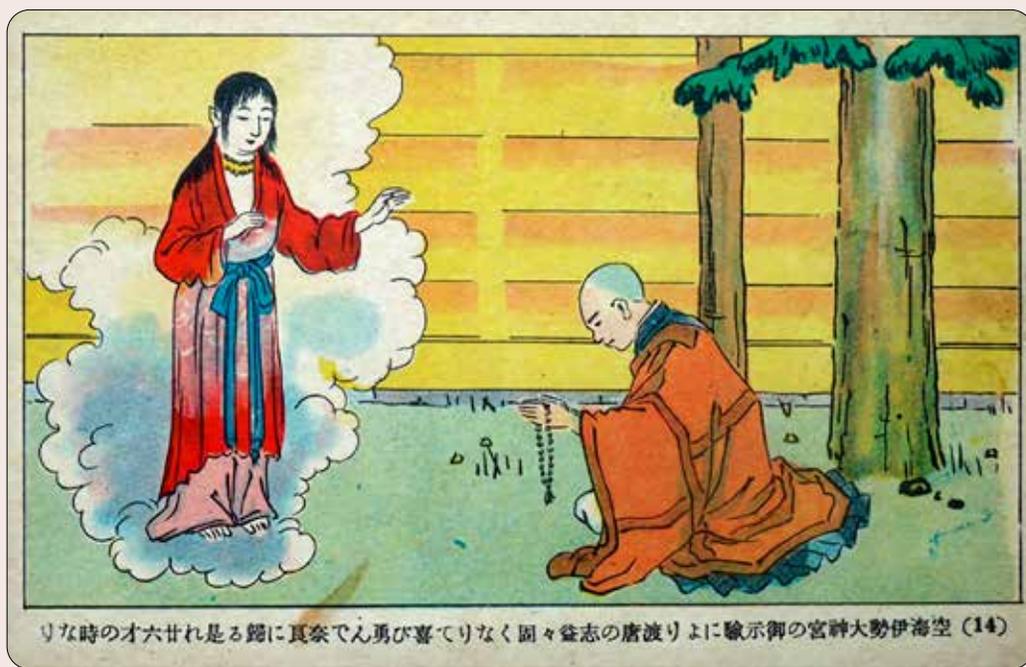
空海(弘法大師)の一生は、伝統的に巻物で描かれてきました。そして、その聖人伝の人気は近現代でも続いていました。20世紀初頭、空海の生涯を描いた一連のイラストが、31枚の絵葉書に印刷されました。もちろん、挿絵のほとんどは仏教をテーマにしたものですが、第14号では、空海が伊勢大神宮を訪れたことが描かれています。

そこで彼は、神の啓示を受けます。少年の姿で伊勢の神が空海の前に現れ、彼が計画している唐への旅を実行するように勧めたのです。仏教の袈裟を着た空海は、この啓示を非常に重大に受け止め、喜び勇んで奈良に戻りました。

そして、空海は804年、大使・藤原葛野麻呂に率いられた遣唐使に加わりま

す。ここで、彼は般若心経を100枚写経し、奉納したのです。これらの逸話から、当時、仏教と神道の間には明らかな宗教的交流があったことがわかります。

空海は、肥前の松浦を出港する前、宇佐の八幡神社を訪れたとも言われています。



りな時の才六廿れ是る歸に真奈でん男び喜びなく固々益志の唐渡りよに諭示御の宮神大勢伊海空(14)

理事の業績・研究報告

三宅善信理事長

1月10日 欧州の若手映像作家ヤン・ヤツクル氏のインタビュー取材を受ける。  
 1月14日 辯天宗の初釜に招待される。  
 1月22日 関西国連協会婦人部会新年互例会で挨拶を行う。  
 1月28日 世界宗教者平和会議(WC R P)日本委員会の理事会、新春学習会に出席。  
 1月30日 大阪日華親善協会の理事会・新年互例会に出席。  
 2月4日 山本条太駐関西大使を講師に招いて、国際宗教同志会の総会開催。  
 2月11〜12日 米パラマウント映画製作の「G・I・ジョー」漆黒のスネークアイズのロケに帯同。



外国人カトリック神父にレクチャーする三宅善信理事長



賀茂御祖神社の説明を受けるWCRP日本委員会の理事一行

役員一覧 (任期:令和2年4月1日から令和4年3月31日まで)	
理事・会長	マイケル・パイ (Michael PYE) マールブルク大学名誉教授・元国際宗教学会会長
理事・副会長	奥野 卓司 山階鳥類研究所長・関西学院大学名誉教授 ヤマザキ動物看護大学特任教授
理事長	三宅 善信 株式会社レルネット代表・関西国連協会副本部長
常任理事	芳村 正徳 神習教教主・教派神道連合会理事長
常任理事	ムケンゲシャイ・マタタ (Mukengeshayi MATATA) オリエンズ宗教研究所元所長
常任理事	塩谷 崇之 真和総合法律事務所弁護士・秩父今宮神社宮司
理事	アレキサンダー・ベネット (Alexander BENNETT) 関西大学国際学部教授
理事	オ・ソンファ (呉善花) 拓殖大学国際学部教授
理事	ファビオ・ランベッリ (Fabio RAMBELLI) カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授
理事	鈴木 岩弓 東北大学総長特命教授・日本民俗学会会長
監事	椎名 潤 岐阜女子大学客員教授・元中外日報社取締役編集局長



雪の中、三峯神社に登拝



社叢学会が開催された伏見稲荷大社

2月14日 米国U A 教団のスーザン・F・グレイ会長の表敬を受ける。  
 2月22日 カトリックの外国人神父に金光教について講義。  
 3月13日 下鴨神社でWCRP日本委員会の理事会に出席。  
 3月27日 新型コロナウイルス感染症のパンデミックに伴い、G 20 諸宗教フォーラムの準備会合がテレビ会議形式で開催。以後、ほぼ隔週で開催。  
 4月1日 『神道DNA』われわれは日本のことをどれだけ知っているのだろうか』(集広舎)を刊行。  
 6月3日 弓山達也東京工業大学教授を講師に招いて、国際宗教同志会の例会開催。  
 6月9日 大阪府宗教連盟幹部会に出席。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックに伴い、G 20 諸宗教フォーラムの準備会合がテレビ会議形式で開催。以後、ほぼ隔週で開催。  
 4月1日 『神道DNA』われわれは日本のことをどれだけ知っているのだろうか』(集広舎)を刊行。  
 6月3日 弓山達也東京工業大学教授を講師に招いて、国際宗教同志会の例会開催。  
 6月9日 大阪府宗教連盟幹部会に出席。

塩谷崇之常任理事  
 3月13日 関西大学東京センターで開催されたISSAの理事会・総会・第23回国際神道セミナーに出席。  
 4月5日 環境省職員らを引率して三峯神社奥宮登拝。  
 6月13日 伏見稲荷大社で開催された社叢学会理事会・総会・特別講演に出席。

6月30日 大阪ユネスコ協会の理事会に出席。  
 7月1日 新型コロナウイルス感染症のパンデミックに伴い、国際自由宗教連盟(I A F R)の準備会合がテレビ会議形式で開催。以後、数回開催予定。

新刊 紹介

『宗教の融合と分離・衝突 日本宗教史』  
 伊藤 聡・吉田 一彦、吉川弘文館、2020年7月、4180円

『日本人と山の宗教 講談社現代新書』  
 菊地 大樹、講談社、2020年7月、1100円

『西洋人の神道観——日本人のアイデンティティを求めて』  
 平川 祐弘、勉誠出版、2020年3月、8800円

『日本人なら知っておきたい神道——神道から日本の歴史を読む方法 KAWADE 夢新書』  
 武光 誠、河出書房新社、2020年3月、968円

『神道の中世——伊勢神宮・吉田神道・中世日本紀 中公選書』  
 伊藤 聡、中央公論新社、2020年3月、1650円

『神仏分離を問い直す』  
 神仏分離150年シンポジウム実行委員会「編」、法蔵館、2020年2月、1320円

『日本史でたどるニッポンちくまプリマー新書』  
 本郷 和人、筑摩書房、2020年2月、924円

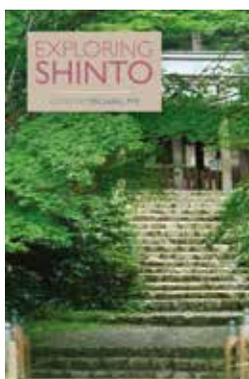
『日本の神様と神社の謎100——神話と歴史に隠されたとおきのおきのエピソード』  
 かみゆ歴史編集部「著」、イーストプレス、2020年1月、748円

「神道国際学会の本」

『神道DNA——われわれは日本のことをどれだけ知っているのだろうか』  
 三宅 善信、集広舎、2020年4月、1320円



『Exploring Shinto』  
 Michael Pye 編  
 Equinox Publications  
 2020年8月  
 £26.95 / \$34.00  
 (Paperback・eBook)



※価格はすべて税込みです。

神道国際学会からのお知らせ

◆ ご入会のご案内：神道国際学会にはどなたでも入会できます。資料をご請求ください。

- 一般会員(年会費) ..... 5,000円
- 賛助会員(年会費) ..... 30,000円
- 特別賛助会員(年会費) ..... 50,000円
- 法人会員(年会費) ..... 100,000円

特定非営利活動法人  
**神道国際学会**

〒154-0014 東京都世田谷区新町 3-21-3 桜神宮 神習会館内  
 Tel. 080-7662-0640 / info@shinto.org

編集後記

今年のはじめ、「新型コロナウイルスの流行」という言葉を最初に耳にした時、誰がこのような状況を予想したでしょう。今頃、私たちはオリンピックの興奮に包まれていたはずでした。しかし、家に留まり、多くのことを我慢する日々が続いています。それでも、私たちは新しい生活スタイルの中で、一歩ずつ前へ進み始めています。行動規範としての信仰や倫理観がどうあるべきなのかを、今こそ皆が考え求めています。神道フォーラムでは、様々な記事や研究者の意見を通して、皆様とともに、「ウィズコロナ」時代の私たちの有り様を見つめる取り組みに、挑戦してみたいと思います。